

# 北朝鮮のグローバル展開

2024年3月8日（金）

聖学院大学

宮本悟



# 北朝鮮の概要

- 正式名称 朝鮮民主主義人民共和国 (Democratic People's Republic of Korea)
- 面積 12万3138km<sup>2</sup> (2013年)
- 人口 2544.8万人 (2019年)
- 首都 ピョンヤン (平壤)
- 言語 朝鮮語
- 政体 社会主義共和制(一党独裁)
- 元首 金正恩 (キム・ジョンウン) 国務委員会委員長
- 朝鮮労働党総書記 金正恩 (キム・ジョンウン)
- 通貨 ウォン (1米ドル = 7000ウォン, 2021年4月14日、駐朝ロシア大使館発表)
- 会計年度 1月~12月

# 北朝鮮の社会状況

- 北朝鮮社会について、多くの人々は北朝鮮の人々が貧しいというイメージを持っている。2019年の北朝鮮の1人当たりGDPは、1,317米ドルである。これはネパールとほぼ同じ水準である。しかし、北朝鮮社会はネパールとは様相がかなり異なっている。
- 北朝鮮では、一人当たりGDPが低い発展途上国のイメージでは想定しにくい社会指標の測定値を出すことがある。
- 北朝鮮は人口1000人あたりの医者数では、2017年の時点で3.7人であり、日本や韓国の2.5人をはるかに凌駕して、世界でも上位に位置する。
- 教育費も無料であり、識字率100%の達成は韓国よりも早かった。

# 北朝鮮の工業能力

- 北朝鮮の1人当たりGDPは低開発国水準であるが、農林水産業が労働人口の過半数を占める多くの低開発国とは産業構造が根本的に異なっている。
- 2018年の北朝鮮の労働人口における製造業就業者の割合は28%である。これは2018年の日本の労働人口における製造業就業者の割合である15.9%を大きく上回っている。これは人口比における工業への投資が日本を上回っている可能性を示している。
- 2019年には冶金、石炭、電力、鉱山、機械、建材、化学、軽工業の分野だけで、GDPで最大の割合を占める38.6%になったことが報告されている。北朝鮮の最大の生産分野は工業であることが分かる。
- もともと1960年代には、すでに労働人口の過半数が工業分野で従事していることが報告されていた。貧しいけれども、工業生産と工業技術が著しく発展している経済である。これは、貧しくても、アメリカと対抗できるほど軍需工業が発展していたソ連とよく似ている。北朝鮮は小さなソ連といえる。

# 北朝鮮の穀物生産力

- 北朝鮮は、穀物生産力が低いというイメージが流布している。たしかに自然状態は寒冷地であるので、気候も厳しく土壌も貧しい。ゆえに、北朝鮮ではそれを克服するために様々な努力が払われてきた。それは、単収向上と耕地面積拡大を基本方針としている。肥料の大量投入による土壌改革、寒冷地でも生産高を上げるための品種改良、干拓工事による耕地面積の増大などである。
- 北朝鮮が国連に提出した報告書によると、2020年の穀物生産量は552万トンであった。これは韓国を上回っている。食糧農業機関（FAO）は北朝鮮の報告書とは別途に北朝鮮の穀物生産量を推定している。FAOは北朝鮮の報告書よりも少ない推定値を出しているが、そのFAOの2021年の推定値を見ても、北朝鮮の国民1人当たり穀物生産量は、日本や韓国、台湾のそれをはるかに凌駕している。台湾の2倍以上である。

地域	2021年穀物生産量 (t)	2021年人口[都市住民 + 農村住民] (千人)	一人当たり穀物生産量 (kg)
北朝鮮	4,481,693.78	25,950.76	172.70
韓国	5,431,955.51	51,666.65	105.13
日本	11,898,830.87	126,109.47	94.35
台湾	1,780,039.23	23,872.68	74.56

# なぜ今、北朝鮮のグローバル展開が問われるのか？

- 世界の国々の多くは非民主主義体制（権威主義体制・全体主義体制）である。特にアジア・アフリカは多い。北朝鮮はそれらの国々と関係が深い。北朝鮮は現在、国連加盟国の159カ国と国交がある。
- 北朝鮮と関係が深い国々の大半は、経済水準が高くない国々である。だから北朝鮮は非民主主義体制の国々と経済的な関係が深いわけではない。北朝鮮は国防・安全保障の分野で非民主主義体制の国々と関係が深いわけである。
- 経済によって国家間の信頼関係が構築できるわけではない。湾岸戦争で130億ドルも拠出したが、クウェートから感謝もされなかった日本の「小切手外交」の経験はその事例の一つである。

# 「我が国の友好国に対する軍事的支援を全面公開」 『朝鮮新報』2000年4月3日2面

- 去る1945年8月から1994年7月まで、我が国が4カ国の革命戦争を助け、53カ国の民族軍隊建設のために軍事的支援を与えた事実が明らかになった。最近、我が国で人民武力省革命史跡館に国際主義館を開設し、このような事実を全面的に公開した。
- 我が国がこれまで様々な国の革命戦争を助け、民族軍隊建設に役立ったという事実は、しばらく噂だけで伝えられていたが、それが事実として確認され、資料が全面的に公開されたのは初めてである。
- 資料によると、朝鮮は日中戦争が終わった後、中国で新しい政府を創建するための解放闘争を展開した45年8月から50年4月まで、なんと10万丁の武器と100万足の靴、3,000疋の布、数千トンの爆薬を支援した。朝鮮はまた、中国東北地方を含む多くの場所で行われた戦争に参加し、中国解放に大きく貢献した。また、朝鮮はベトナム戦争が起こった1964年から1969年までベトナムに武器10万丁、軍服100万疋を支援し、飛行部隊と空兵部隊を現地に派遣することで、ハノイ領空権を制圧しながら、戦争を勝利に導いた。
- 一方、朝鮮は1973年に行われた中東戦争の期間にもイスラエル侵略軍に反対するシリアとエジプト人民の闘争も誠意をこめて支援した。

# 北朝鮮の弾道ミサイル開発の起源

## ―シャーズイリー・エジプト軍参謀総長の回顧録から

### 一、解説

北朝鮮の弾道ミサイルが、日本にとつて安全保障上の脅威であることは広く認識されているであろう。一九九三年五月

二十九日に弾道ミサイルを日本海に向けて発射したことから、北朝鮮が弾道ミサイルを開発していることが日本で認識され始めた。さらに一九九八年八月三十一日に人工衛星を白頭山1号ロケットで打ち上げ、それが日本列島を越えたことは、

に弾道ミサイルを導入したのはエジプトからであることが韓国国防部によって確認されている。韓国国防部が発行している『国防白書』では一九九五年発刊版から、エジプトが北朝鮮にソ連製の弾道ミサイルであるスカッドB(ソ連名・R-17E)を渡したと記し始めた。もちろん韓国国防部ではそれ以前からこの事を確認しており、韓国陸軍情報参謀部の李台鎬が一九八九年九月に発表した論文では、一九七三年十月に勃発した第四次中東戦争で北朝鮮が支援してくれた代償としてエジプトがR-17Eを渡したと論じている。

実際に、北朝鮮のミサイル部隊の存在が最初に確認できるのは、第四次中東戦争のすぐ後である。北朝鮮の主席であった金日成が一九七四年八月に第六三九軍部隊を訪問したのが、現在判明している最初のミサイル部隊の記録である。第六三九軍部隊とは、現在の戦略ロケット軍を率いる戦略ロケット司令部のことである。第四次中東戦争におけるエジプト支援によって得たR-17Eによって、北朝鮮でミサイル部隊が編成され、現在まで

北朝鮮が日本を弾道ミサイルで攻撃できる能力があることを明確に示した。二〇〇九年四月五日と二〇一二年十二月十二日にも日本列島を越えて人工衛星を打ち上げており、日本ではこれらを弾道ミサイルの発射実験と断定している。

北朝鮮の弾道ミサイル開発は、日本だけではなく、国際的な問題でもある。二〇〇六年十月十四日に採択された国連安保理決議第一七一八号では、北朝鮮の弾道ミサイル計画に関連する全ての活動を停止することが決定された。これは二〇

発展してきたことは間違いないであろう。

したがって、第四次中東戦争において北朝鮮がエジプトに対してどのような支援を行ったのかを明らかにすることは、北朝鮮のミサイル開発の起源を解明する上で、重要な第一歩となる。その支援について詳細に記録しているのが、第四次中東戦争当時にエジプト軍参謀総長であったサアドッディーン・シャーズイリーの回顧録である。

北朝鮮の正規軍である朝鮮人民軍の前身となる部隊で最初に組織されたのは航空隊であって、一九四五年十一月二十九日のことであった。それほど北朝鮮では空軍の発展に力を注いできたといえる。さらに、北朝鮮では、一九六二年十二月十日から十四日まで開催された朝鮮労働党中央委員会第四期第五次全員会議で、全国に坑道や地下施設を構築する「全国要塞化」政策を提起しており、工兵部隊の発展に力を注いできた。それらが活用されたのが、ベトナム戦争であった。北朝鮮は、北ベトナムを支援するために空軍部隊と工兵部隊を送った。ベトナム戦争での支援の経験が、エジプト支援にも

は北朝鮮の最も得意とするところであり、この点で北朝鮮の技術供与がエジプトだけでなく中東各国に行われていたとすれば、北朝鮮は現在の中東をめぐる国際問題に、文字通り根幹で深く関与していたことになる。エジプトに対して一九七三年の時点でこのような働きかけを行っていたということから、中東の他国に対して同様の技術供与がなされた可能性は否定できず、今後の調査が待たれる。

### 三、翻訳

#### エジプトの北朝鮮人パイロット

一九七三年の三月の間、朝鮮民主主義人民共和国の副主席がエジプトを公式訪問した。張正桓中將・人民武力部副部長が随員として同行し、スエズの前線の視察を要望した。三月六日、私は張と共に前線に向かった。道中に、軍の諸問題を議論し、意見を交換した。私は、エジプトはパイロットの養成に困難を抱えており、われわれの保有するミグ21を運用しきれない、特に、七十五機を運用していたおおよそ百人のパイロットをソ連が

一三年三月七日に採択された国連安保理決議第二〇九四号でも引き継がれて、現在に至っている。しかし、北朝鮮はこれを拒否して、弾道ミサイルの開発を続けている。五月十八日から二十日にも、短距離ではあるが、弾道ミサイルを日本海側に発射した。北朝鮮に弾道ミサイル開発を停止する意志がないことは明らかである。

にもかかわらず、北朝鮮の弾道ミサイル開発がいつから始まったのかはほとんど知られていない。実は、北朝鮮が最初

### 二、資料解題

エジプトで二〇一一年一月二十五日に始まった反政府抗議行動は、十八日間の大規模デモの末、二月十一日、ムバラク大統領を辞任に追い込んだ。決定的となったのは、その前日の軍の動きである。軍は最高司令官である大統領を差し置いて、独自に軍最高評議会(SCAF)を招集し、軍令一号を発出して体制の移行を促進し、十日夜の演説でなおも辞任を拒んだ大統領に、翌十一日には引導を渡した。

長く非政治化されてきた軍首脳が政治の前面に踏み出したこの二月十日に合わせたかのように、一人の将軍が波乱の多い生涯を終えていた。サアドッディーン・シャーズイリー中將である。シャーズイリーは一九二二年生まれの陸軍軍人で、軍参謀総長(一九七二年四月―七三年十二月)として「十月戦争」(日本では「第四次中東戦争」と呼ばれる)の際に

引き上げてからは、と話した。そして、この機をとらえ、私は切り出した。

「北朝鮮がミグ21のパイロットを何人が提供してくれることは可能と思われませんか？ そうすれば双方の利益になるでしょう。われわれの側にとっては、あなた方が防空に参加してくれる、パイロットが足りないというわれわれの問題を解決してくれることになりました。北朝鮮側にとっては、パイロットが実戦の知見を得ることになるでしょう。なぜかと言うと、イスラエル人はあなたがたの想定された敵と同じ飛行機を使い、同じ戦術を用いているからです」。

彼はパイロットが何人必要なのかと訊ねてきたので「ソ連の抜けた穴をすべて埋めてもらおうとは思っていません。飛行中隊を一つ送ってくれば十分です。もし将来にもう一隊送ってもらえばいいでしょう」と答えた。われわれは軍人として議論していたけれども、この問題には双方の政治の決定が必要であることは重々承知の上だった。われわれは互いに、必要とされる決定を得るために、政治方面での説得の努力を尽くすことを



十二月までを対象にしており、見返りの供与については触れられていない。見返りの供与が十月戦争の前の段階で約束されていたのここでは記されていないだけなのか、あるいはシャーズイリーが更迭された後に進められたのか、この回顧録からは判然としえない。空軍司令官だったムバラクがその後北朝鮮との関係をさらに深めていき、自らスカッド・ミサイル供与を主導したのか、あるいはエジプト側に別のチャンネルがあったのか、変動期のエジプトで新たな資料・報道が出てくるの注意して待つべきだろう。

北朝鮮からの軍事支援の第二は、地下施設の建設をめぐるものである。これは英語抄訳版には全く収められていない部分であり、これまでにほとんど注目されてこなかった問題である。地下施設の建設への技術協力は、より広く北朝鮮の中東への影響と、それが翻って国際政治に与える帰結という意味で、更なる関心を惹きつけてしかるべきものだろう。イランの核開発問題への対処の難しさは、疑惑の施設が多くが地下化されているところにある。シャーズイリーが驚きをもって記述しているように、地下施設の建設

# 北朝鮮に対する国連安保理制裁の報告国

グループ名	アフリカグループ (African Group)	アジア太平洋グループ (Asia-Pacific Group)	東ヨーロッパグループ (Eastern European Group)	ラテンアメリカ・カリブ海グループ (Latin American and Caribbean Group)	西ヨーロッパ・その他グループ (Western European and Others Group)	無所属
グループ国数	54ヶ国	53ヶ国	23ヶ国	33ヶ国	28ヶ国	2ヶ国
報告書提出国	23ヶ国	37ヶ国	23ヶ国	16ヶ国	28ヶ国	1ヶ国
提出率	42.6%	69.8%	100%	48.5%	100%	50%

# マハティール首相が北朝鮮の画家に描かせたパノラマ画がある水田博物館





Image © 2024 CNES / Airbus

Google Earth

圖像取得日期: 2024/12/24 8° 11'28.80" N, 100° 19'35.25" E 攝高: 4 m 高度: 385 m



## アンコールワット・ パノラマ博物館

- 北朝鮮がカンボジアのシエムリアップに建設して、経営していた博物館。現在は閉鎖中。



2023/11  
アソシエイト・バノア博物館

2023/11/25/14:00

Special Candidate in Film Dept

Vending Room

1st Floor, 1st Floor, 1st Floor

1st Floor

1st Floor, 1st Floor, 1st Floor

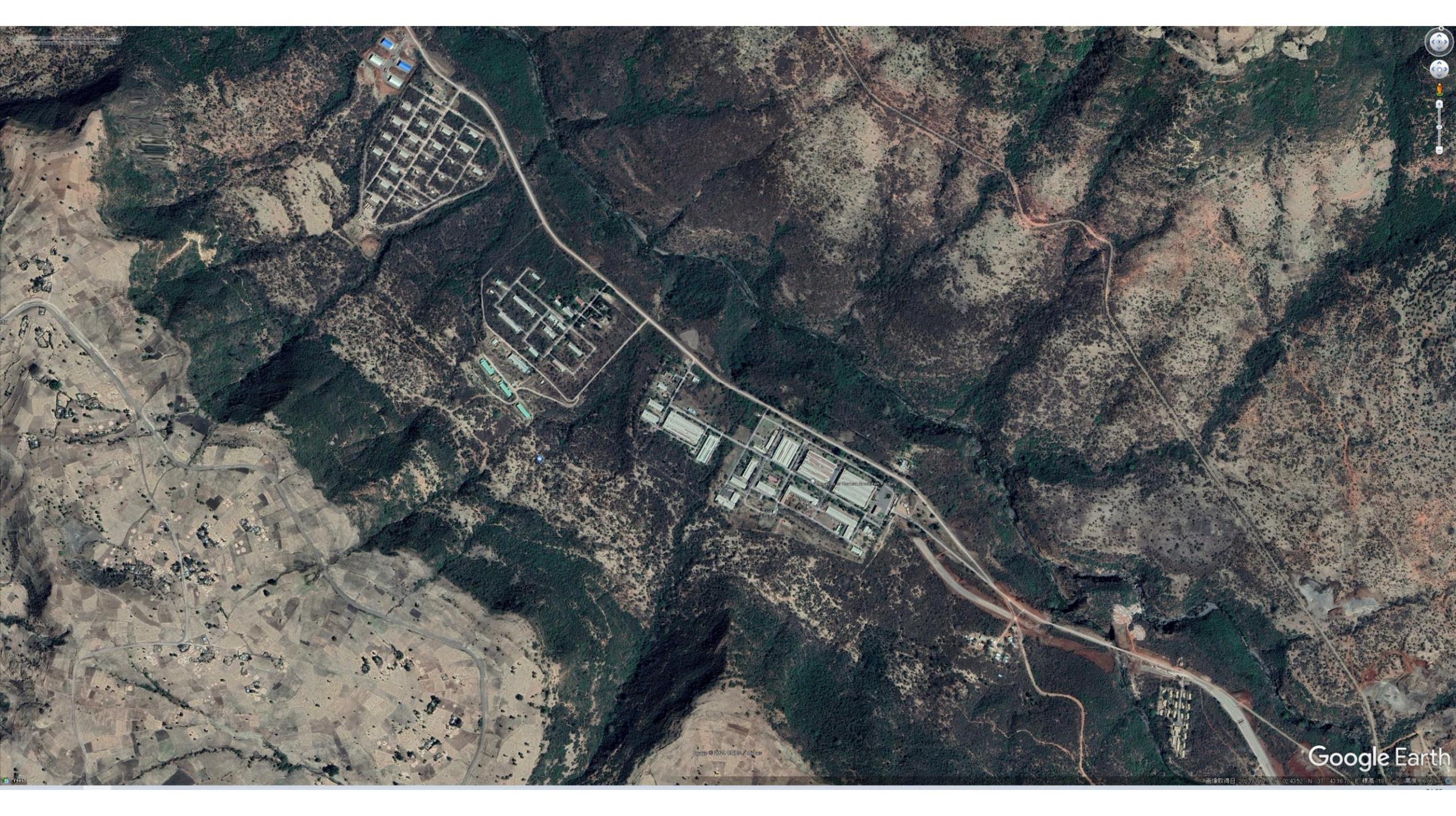
# エチオピアのHomicho Ammunitions Engineering Industry (1980年代に北朝鮮が建設した武器工場)



正門



大通りに立てられた看板



Google Earth

Imagery © 2020 Google

圖像取得日: 2025/10/27 00:43:52 N: 37° 43' 16.78" E: 經高: 1812 m 高度: 980.0 m

# ナミビアの軍事基地で働く北朝鮮労働者



2015年9月



Google Earth

影像取得日: 2015/9/1 22° 35' 49.59" S 16° 21' 26" E 標高: 1696 m 速度: 2.02 km

Image © 2024 Maxar Technologies

現在

